

小樽市経済動向調査結果

1. 調査期間：2021年7月から9月
2. 調査対象：小樽市内の企業272社
3. 内 訳：製造業62、卸売業27、小売業44、運輸・倉庫業20、観光業46
サービス業39、建設業34
4. 回答企業数：180社（66.1%）
5. 調査方法：調査票によるアンケート

※DI（景気動向指数：ディフュージョン・インデックス）とは・・・

好転（増加）企業割合から悪化（減少）企業割合を差し引いた値のことで、この数値がプラスかマイナスか、そしてその大きさによって景気の動きを時期的な推移の中で把握します。

概 況

一 業況は改善するも、原材料費の高騰で厳しい経営環境が続く 一

前年同期（2020年7月～9月）と比べた今期（2021年7月～9月）の状況
今期と比べた来期（2021年10月～12月）の予想

企業の景況感を示す業況判断DIは▲26.7で、前年同期と比べ22.7ポイント上昇しました。緊急事態宣言の影響で、観光関連産業、飲食店、旅客運送を中心に業況DIが低調に推移しました。需要の停滞や原材料価格、商品仕入価格、燃料費の高騰が課題です。

業種別DIは、製造業が同45.4ポイント上昇の▲5.6となりました。業況DI、売上DI、採算DIのいずれも好転しましたが、金属製品製造では全社で、食品製造では約9割の企業で原材料価格が上昇したとの回答がありました。卸売業は同39.0ポイント上昇の▲21.0となりました。業況DI、売上DI、採算DIのいずれも大幅に好転し、売上単価DIがプラスに転じましたが、仕入単価DIも大幅に上昇しました。小売業は同4.0ポイント上昇の▲36.0となりました。売上DIは大幅に上昇しましたが、業況DIは回答に占める不変の割合が増加しており、限定的な回復にとどまりました。運輸・倉庫業は同3.9ポイント上昇の▲27.7となりました。昨年同期は、旅客運送の全社、貨物運送の約8割の企業で売上が減少したとの回答がありましたが、今期は両業種とも約半数の企業が好転または不変と回答しており、売上の減少傾向は弱まりつつあります。倉庫は前年同期の状況と大きな変化はありませんでした。観光業は同44.5ポイント上昇の▲52.8となりました。業況DI、採算DI、売上DIいずれも大幅に好転しましたが、回答に占める悪化または減少の割合が6割を超えており、依然として厳しい状況にあります。サービス業は同16.1ポイント上昇の▲30.5となりました。飲食業では全ての企業で仕入単価が上昇し、8割強の企業で採算と業況が悪化しました。人件費の増加、利用者ニーズの変化への対応が主な課題です。建設業は同6.2ポイント上昇の▲13.1となりました。業況DIと売上DIは上昇しましたが、材料仕入価格が上昇傾向にあり、採算DIが低下しました。

来期の業況判断DIは▲21.1で、悪化傾向が続くと予想しています。新型コロナウイルスのワクチン接種の拡大や、緊急事態宣言の解除による人流の回復が期待されますが、仕入価格や燃料費の高騰による採算の悪化、新型コロナウイルスの再流行が懸念されます。また、コロナ禍によって変容した国民の生活様式は当面の間変わらない可能性も指摘されており、企業にとって先行きを見通せない状況が続くと思われれます。

業況、売上、採算

今期（2021.7～9）の業況判断DIは▲26.7で、前年同期(2020.7～9)と比べ22.7ポイント上昇しました。

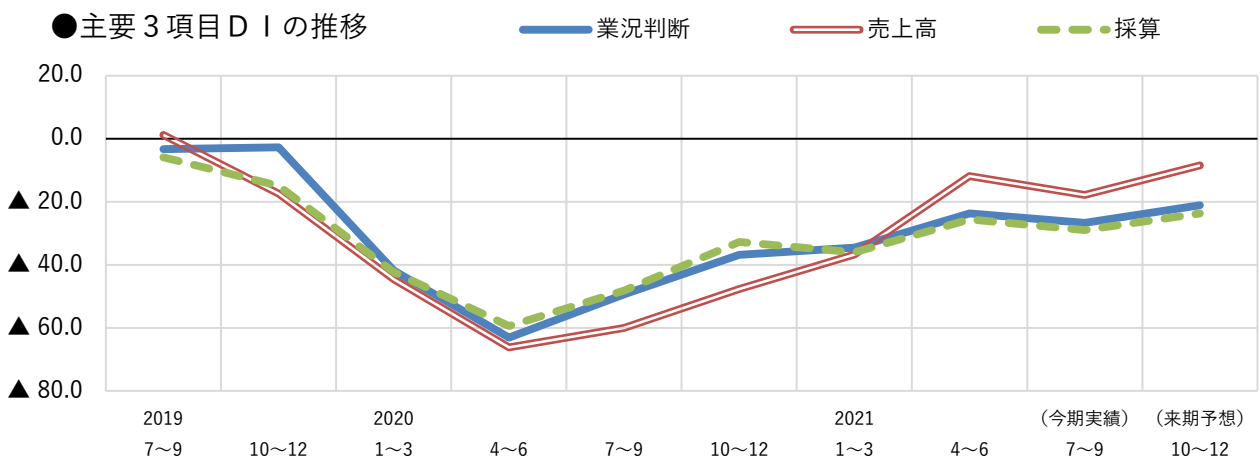
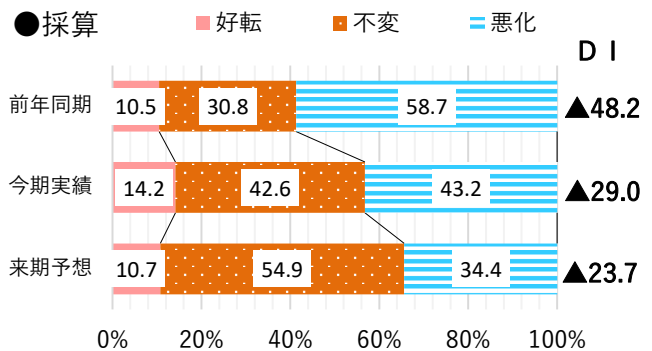
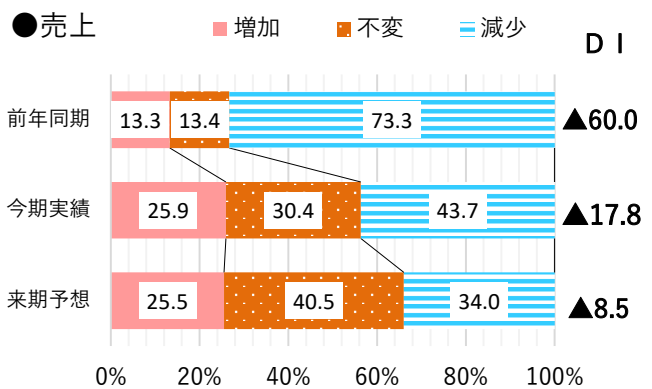
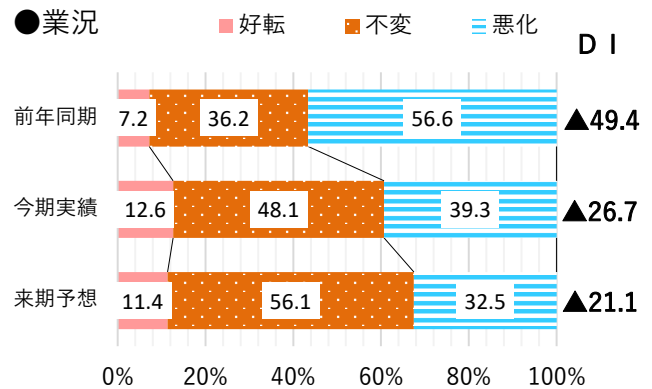
来期（2021.10～12）は、業況の悪化傾向が続くと予想しています。

今期の売上DIは▲17.8で、前年同期と比べ42.2ポイント上昇し、大幅に増加しました。

来期は、売上の減少傾向が弱まると予想しています。

今期の採算DIは▲29.0で、前年同期と比べ19.2ポイント上昇しました。

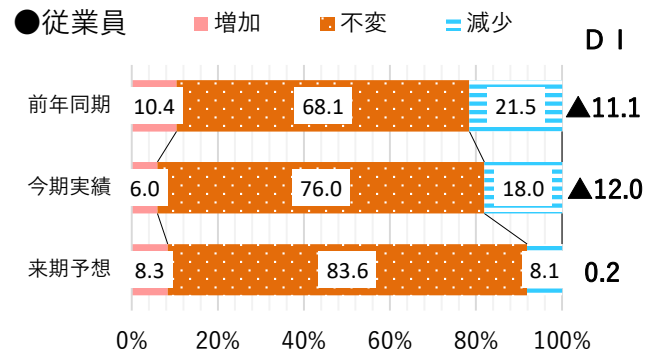
来期は、採算の悪化傾向が続くと予想しています。



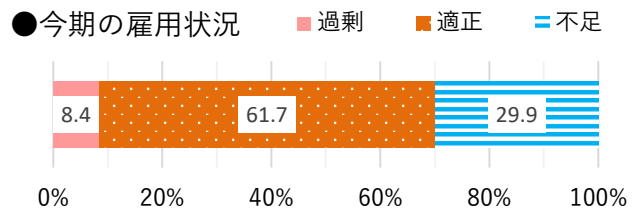
従業員、今期の雇用状況

今期の従業員DIは▲12.0で、前年同期と比べ0.9ポイント低下しました。

来期は、従業員数がプラスに転じると予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業の割合は8.4%、適正であると回答した企業の割合は61.7%、不足していると回答した企業の割合は29.9%でした。



従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」という回答で、全業種の49.4%を占めています。

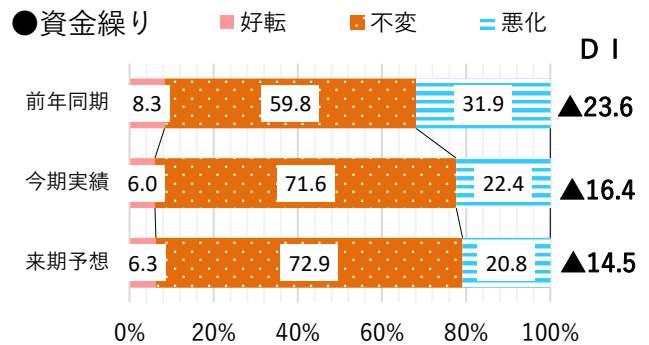
次いで多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、不足している」という回答でした。

今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	1
	適正	6
	不足	2
不変だった	過剰	8
	適正	89
	不足	37
減少した	過剰	9
	適正	13
	不足	15

資金繰り、設備投資

今期の資金繰りDIは▲16.4で、前年同期と比べ7.2ポイント上昇しました。

来期は、資金繰りの悪化傾向が続くと予想しています。



新規設備投資の動向では、回答のあった180社の29.4%にあたる53社が実施、前年同期と比べ1.0%低下しました。投資内容は、1位が「車両運搬具・輸送機材」、2位が「OA機器」の順です。

来期は、26.7%にあたる48社が設備投資を計画していると回答しています。

